

令和7年度授業改善プラン

- (取り組み内容)
- ・毎学期の終わり、自分の担当(各学年ごとに項目だてて)の授業に関して作成する。

・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。

・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。

・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

教科名(美術) 教科主任名 宮越 一昭

★教科・観点について
学力向上のための調査・期末テストび学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。<○成果 ▲課題>

観点	前半～9月			後半～1月			次年度に向けて
	学年	課題分析	具体的な改善策	学年	課題分析(授業改善・プランの1次評価)	1次評価後の具体的な改善策	まとめ
知識・技能	1年	○丁寧に取り組める生徒が多い。今後も基本に忠実に制作させたい。 ▲初めての調査で学習方法に戸惑う生徒が多かった。	・個人指導の中で、生徒の力量に合わせた手だてや学習方法を提案し、知識や技能が高まるよう働きかける。	1年			
	2年	○個々の関心があるものと結び付けて、創意工夫する生徒が増えた。 ▲調査では言葉で答える問題を多くしたところ戸惑う生徒が多かった。授業で得た知識を整理して覚え、しっかりと理解していくことが課題である。	・教室環境を整え、また、ICT機器を活用して制作に没頭できる環境を作る。 ・調査に対してどのように取り組みれば良いか、題材ごとに丁寧に説明し知識の定着を図る。	2年			
	3年	○成績に対する意識が増し、得た知識を技能として高いレベルで発揮できた生徒が多かった。 ▲調査では結果の二極化が大きい。授業で得た知識を整理して覚え、しっかりと理解していくことが課題である。	・教室環境を整え、また、ICT機器を活用して制作に没頭できる環境を作る。 ・調査に対してどのように取り組みれば良いか、題材ごとに丁寧に説明し知識の定着を図る。	3年			
思考・判断・表現	1年	○指示されたことをきちんと行う生徒が多い。 ▲それ以上の工夫をしようという意識を育む必要がある。一つ一つにおいて教員側の指示を仰ごうとする様子が見られる。	・発想、構想の手だてを明確にし、工夫する面白さを経験しながら発想や構想の能力の育成を目指す。	1年			
	2年	○指示されたことをきちんと行い、さらに創意工夫しようとする生徒が増えた。 ▲学習者用端末の使用機会が増したことで、インターネット上のアイデアを安易に利用しようとする生徒が増えたことが課題である。	・アイデアを練る場面では、ICTの活用も取り入れるが、そればかりに頼らず、中間鑑賞やグループでの鑑賞機会を増やし、生徒間の関わりの中で発想を広げたい。	2年			
	3年	○高いレベルの表現に挑戦しようと描画材料の使い方などを工夫する意欲的な生徒が多かった。 ▲制作時間への意識や計画性を持たせることが課題であり、時間内に完成できなかった生徒がいた。	・授業の目標やテーマをしっかりと設定させるとともに、参考作品を豊富に用意し、さらなる向上を目指す。また、制作時間と計画的に制作することへの意識付けを強化する。	3年			
主体的に学習に取り組む態度	1年	○指示されたことを一生懸命取り組む素直な生徒が多い。 ▲さらに高いレベルにチャレンジしようとする生徒は少なく、言われたことを行って満足している生徒が多い。	・個々の関心や取り組みやすい制作方法などを紹介し、苦手な生徒でも楽しく参加できる授業作りを目指すとともに、教室環境を整え、レベルの高い作品を数多く鑑賞させる。	1年			
	2年	○全体の流れがつかめた生徒は、見直しをもって取り組んでいた。逆算して制作目安を決めている生徒もいた。 ▲意欲的な生徒とそうでない生徒の差が大きくなりつつある。	・取り組む意義や題材の目標を明確に提示し、目的意識をもって取り組めるよう板書や提示方法を工夫する。係や担任との連絡を密にし、忘れ物が無いように連絡を徹底する。	2年			
	3年	○指示されたことを一生懸命取り組む素直な生徒が多い。 進んで工夫しようとする生徒も多かった。 ▲苦手意識が強く、粘り強さに欠け、時間を有効に使えていない生徒が若干いた。	・時間の大切さを意識させ、取り組む意義や何を学ぶかを的確に助言し、目的意識をもたせ、粘り強く取り組ませる。	3年			